

第3回農林水産統計の広報・公表及び利活用の改善に関するアドバイザーグループ懇談会議事概要

- 1 日 時：平成17年6月6日（月）14:00～16:00
- 2 場 所：農林水産省統計部第1会議室
- 3 出席者：委員 古賀雅隆、野村一正、平野芳郎、藤井喜継、
舟岡史雄、細谷章、吉田泰治
有識者 合瀬宏毅
大臣官房統計部 統計部長、統計企画課長、システム管理室長 他
- 4 議 事：
 - (1) 広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方について
 - (2) ホームページによる広報・公表の現状と改善について
 - (3) 農林水産統計情報総合データベースの現状と改善について
 - (4) その他
- 5 議事概要

事務局から広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方、ホームページによる広報・公表の現状と改善、農林水産統計情報総合データベースの現状と改善について説明し、委員等から意見を求めた。

 - (1) 広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方について

事務局が提示した広報・公表の相手側として想定するイメージとそれに見合った統計のあり方の修正案に対して、特段の意見はなかった。
 - (2) ホームページによる広報・公表の現状と改善について

事務局が提示したホームページの構造の改善案及びホームページによる広報・公表の現状と改善の方向の案に対し、

ホームページの構造の改善案は確かにロジック的には整理されているが、ユーザーの利用実態がどうなのかということを加味しながらこの構造を変えないと、統計部的には整理されたとしてもユーザー側としては迷うことになる。例えば、「わがマチわがムラ」はアクセス件数も多く利用されているものであるが、これ

を「グラフと絵で見る食料・農業」という分類の中に組み入れて、ユーザーが探すことができるかということがある。

ホームページの場合、見に来た者を内部に引っ張り込まなくてはいけないため、ホームページの内容が分かることが重要。各コーナーの入り口にキャプションなどを入れることで、初めて見に来た者にも中に何があるのか分かり、検索しやすくなる。

農林水産省内の各コーナーに入っていくと、「わがマチわがムラ」のトップ画面のように突然ユーザインターフェイスが変わることがある。こうなると、ユーザーはどこへ行ったのかと迷うことになるし、元のページへどこから戻ればよいのか分からなくなることもあるので、「前画面への戻り」などの案内も考える必要がある。

統計の調査環境を改善するためには統計は大事であるという広報が必要であり、そのためにもできるだけ分かりやすいホームページとした方がよい。一例として、視覚障害を持っている方にあわせてホームページを作ると、意外と分かりやすいものができるという感じがあり、そのような面からの検討も必要ではないか。

農林水産省の統計部以外の部局でも、食料需給表等の統計データをホームページ上に掲載しているが、統計のコーナーから行くことができないのが現状である。統計のコーナーからは、省内のすべての統計データへたどり着けるような仕組みを作っておくことが必要ではないか。

他府省の例では、ユーザーから民間の統計データにリンクできるようにして欲しいというリクエストが強いということを知っている。農林水産省についても、例えば外食産業などの業界団体では、業界内の統計資料等をホームページに掲載しているところもあり、ユーザーの利便性を考えてそういったところへのリンクをはることも考えてみてはどうか。

企業の中には、自社に関するマスコミ等の記事をホームページに掲載し、企業の活動内容、世の中の注目度などをこうした記事を通じてPRしている例がある。農林水産統計についても、結果の解説、分析、それに基づいた評価をしている記事等をホームページに掲載し、利用者が、世の中の関心がどのデータにあり、どう読んでいるか等について見られるようにできれば、もっとなじみが深くなるのではないか。

農林水産統計の過去の公表資料を「平成16年4月～平成17年3月までに公表した統計」という公表日で括って提供しているが、ユーザー側の利用を考えると統計が対象としている年度で括った提供はできないか。

「農林水産統計データ」の中の分野別分類一覧表は、その名前から想定されるような分野別分類の一覧が出るのではなく、公表資料名が並んでおり、そこからPDFに飛んで行く仕組みとなっている。使い慣れていない利用者にとっては、不親切な作り方であり、どこに何があってどのようにして調べればいいのか分かるような作りが必要である。

品目別分類について、一般消費者はいちご、すいか、メロンが野菜だということとはまずわからない。家計調査だったら果物に分類されている。一般消費者向けを意識すると、果物(果樹)を探しても、どこにもいちご、すいかなどが出てこないということになり、その辺りへの配慮も必要である。

「わがマチわがムラ」の改善について、市町村別のデータを用いて「統計的分析手法による将来予測等を行い…」とあるが、これは農林水産省がお墨付きを与えることとなり危険ではないか。関係団体等が、こういう分析手法で予測を行うという付加価値を与えた提供であればいいと思うが、役所が予測をやることについては慎重な対応が必要である。

これが、地方公共団体向けであれば、いろいろな協力関係を密にしてきたところであり、そういうところからのニーズとして、オンデマンド集計ができるようなサービス体制をとり、その集計結果が非常に意味のあるものであれば、基本表としてホームページに掲載するなどの改善につなげて行くといった方法が適切ではないか。

アクセスログの集計について、プログラムがあれば可能であり、どんなところからアクセスしているかという分析をすることが、統計情報をどこへ向けて発信するかということにつながってくることとなる。このため、今はできなくても、やっておく必要がある。

農林水産省もアイドマ(注意をひいて(Attention)、興味をを起こさせて(Interest)、欲求をを起こさせ(Desire)、記憶を残して(Memory)リピーターを確保してアクションを起こす(Action))の方向に向いており、非常によいと感じている。ただし、アクセスログの解析については、できることとできないことがはっきりと分けられ、できることはここでやる、できないことは別の方法できちんと押さえるということを把握しておかなければいけない。例えば、どういう人が利用しているかを知らうとした場合、ログの解析ではできないので、感想を伺うとかのフィードバック的な仕組みを作るなど、目的によって使い分けることが必要である。

等の意見が出された。

座長からは、非常に重要な指摘がなされているので事務局で検討願う旨の発言があり、これを受け事務局は、取りまとめ資料を作成し、その中に反映させることとした。

(3) 農林水産統計情報総合データベースの現状と改善について

事務局が提示した農林水産統計情報総合データベースの現状と改善の方向の案及び諸外国の各統計機関におけるホームページ、データベースサービスの現状に対し、

エクセルでの統計表について、表頭部分が文字情報の制約を受けて長い枠（カラム幅）をとっており、画面上で横のスクロールをするときに左のデータが隠れてしまい不都合を感じる。表頭部分の段を多くしてでも、空白が少ないようにコンパクトな表にすると見やすくなる。

等の意見が出されたが、予定時間を超過したため、座長から第4回において改めて議論の場を設けることとしたい旨の提案がなされ、了解された。